

小学校第3学年 社会科 学習指導案

期 日 平成28年2月19日(金) 2校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校 3年1組教室
指導者 教諭 宮川 智可

- 1 単元名 変わるわたしたちの暮らし
「昔の道具と暮らし」 (教育出版3・4年上)

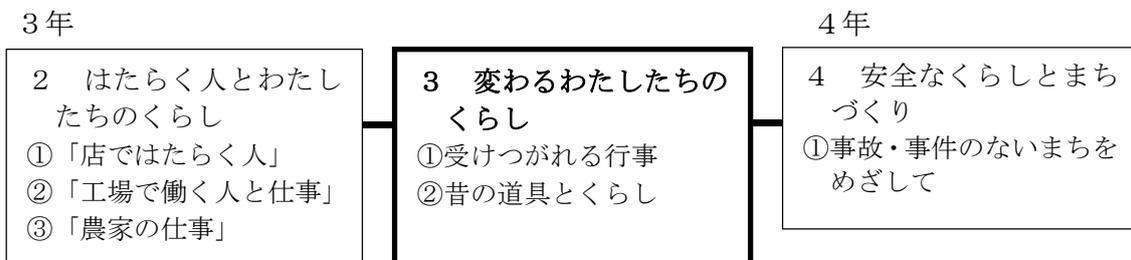
2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領社会科編内容(5)の「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」のア「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」を受けて設定されている。本単元は、児童の実生活にとってより身近な道具であるエアコンや洗濯機、オーブントースター、ストーブなどを教材として取り扱い、昔の道具といまの道具との比較により、昔の道具の様子や使い方、使っていた頃の人々の暮らしの様子について具体的に追究する単元である。初めての歴史学習の要素がある単元として、見学活動や体験活動を組み込み、実感を伴った理解へとつなげることができる単元でもある。児童は、これまでに国語科の学習において「姿を変える大豆」の学習を発展させて、大豆づくりを行っている。自分たちで栽培し、収穫した大豆を昔ながらの道具で加工し、七輪による火起こし体験からもち焼き体験まで意図的・計画的に行うことで、道具そのものの変遷を捉えるばかりではなく、地域の人々の生活がどのように変化してきたのかについて深く捉えられるようにする。

本校の校区にもある山鹿市博物館には、昔の道具の展示コーナーもあり、3学年までの館内見学時には昔の道具に触れる機会もあったと思われる。また、自分の祖父母や父母との実生活の中における経験を引き出しながら学習を進めていくことができる。これらの学習活動を通して、昔の人々の知恵や工夫に気付き、地域の人々の生活の変化や人々の願いについて考え、変化・発展を願ってきた人々の生き方に触れることで、これからの自分の生き方に迫ることが期待できる単元である。

(2) 系統観



小学校学習指導要領社会科編

(5)「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」
ア「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」

(3) 児童観

児童アンケートによる意識調査より (男子21人, 女子19人, 計40名)

項目	とても	まあまあ	あまり	思わない
授業のめあて(目標)について, 考えている。	9	26	2	0
難しい問題に出会うと, 解いてみようというやる気が出る。	23	8	5	1
なぜと思ったことやわからないことは, 先生に聞いたり, 本を読んだりして調べてみる。	14	16	5	2
みんなに自分の考えが分かりやすいように, 発表している。	11	17	9	0
友だちの考えや発表に対して, 質問をしたり意見を言ったりしている。	11	17	9	0
問題を解決するために友だちと協力して調べたり, 考えたりしている。	15	17	4	1
友だちと考えが違ったときには, お互いがわかり合えるように, 話し合うようにしている。	11	20	4	2

【考察】

児童の多くが授業のめあて(目標)について考えていることは, 日頃の授業で意識化されているためであり, めあてが焦点化されていることが分かる。また, 難しい問題に出会ったときや「なぜ」の問いに対する課題解決への意欲や意識が高い児童が多いことも分かった。さらには, 課題解決に向かって友だちと協力して取り組もうとする意識や他者の意見や考えと関わり合おうとしている意識も高いことが分かる。しかし, 相手に分かりやすく伝えたり, 友だちの意見に対して批判的思考を伴って対話を重ねたりすることに苦手意識を持つ児童もいることが分かった。

豊かなかかわり合いのある言語活動を設定することで, 他者との対話を重ねながら課題解決を図るとともに, 価値観の違う他者と協働しながら自らの生き方について考える活動を取り入れることが必要である。

(4) 指導観

- 問題解決的な学習の展開を軸として単元を構成し, 課題解決のプロセスを身に付けることができるように, 単元を貫く言語活動を設定することで児童が主体的に学習を展開していけるようにする。
- 意志決定を図る「問い」により, 調べて考えたことを出し合い共有しながら互いの価値に出会うことで, 他者を認め合いながら自分の生き方に向き合うことで当事者意識が高まるようにする。
- 互いの考えを練り上げるための伝え合い・学び合う活動(対話)を充実させる。そのためには, 意見の出し合いに終わることがないように, 友だちの考えを聞いて, 自分の考えと比較したり関連させたりして, 意見を「つなげながら」児童が主体的に学習を展開していけるようにする。
- 自己評価を行い, 学習を振り返る時間を設けることにより, 児童一人一人の社会的な思考力・判断力・表現力の深まりといった学習状況をつかむことができるようにする。また, その状況により, 支援が必要な児童に対しては個別に対応し適切な支援を行うようにする。
- 児童に毎時間, 授業の感想の場を設けることで, 授業のふり返りと次時への意欲付けにつながるようにする。

【共同研究による協働・協調的な学びを充実する視点から】

<p>【視点1】 学びを引き出す 豊かなかかわり合いのある 言語活動</p>	<p>【視点2】 学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>【視点3】 学びを支える 学びのUD化と 効果的なICTの活用</p>
<p>【視点1】 単元を貫く言語活動の設定と共に、意思決定型の「問い」を提示することで、課題解決型の学習過程を図り、協働・協調して学び合う場を設定することで、相手を納得させ・説得することを主軸とした言語活動を設定する。こうした豊かなかかわり合いから対話が生まれる授業を通して、思考力・判断力・表現力が育成されるようにする。</p>	<p>【視点2】 学習のねらいを明確につかみ、振り返りの視点を教師と児童が共有できるようにする。また、意志決定型の「問い」に対する事前の個の考えと、多様な他者と協働して学び合いゆさぶられた後の考えとの変容を可視化することができるようにする。これらにより、社会に対する見方や考え方を感じ取ることができるようにする。</p>	<p>【視点3】 相手意識と目的意識を明確にした学習課題をより具体的に設定することで、児童が追究する視点を焦点化し、意欲的に学習に取り組めるようにする。 児童一人一人の学習への参加と理解を保障するために、実感を伴った理解が可能な学習シートの工夫を図る。</p>

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

- ・児童一人一人が学習に見通しが持てるように、1単位時間の学習過程を提示する。
- ・学習シートの配慮をしたり、絵カードを利用したりする。
- ・児童一人一人が安心して授業に臨むことができるように、互いを認め合い、支え合うことができるような人間関係づくりを日常的に図る。

【合理的配慮】

(省略)

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

地域の人々の生活について、古い道具を観察したり、使ってみたり、使い方を聞いたり、年表にまとめたりして祖父母や父母の子どもの頃のくらしや考え方に触れ、人々の生活の変化や人々の願いがわかる。

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>・地域の人々の生活の変化に関心をもち、意欲的に調べている。</p>	<p>・地域の人々の生活の変化について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ・地域の人々の生活の今昔の違いや変化、人々の生活の知恵を考え適切に表現している。</p>	<p>・郷土資料館などを観点に基づいて見学したり地域の方から聞き取り調査したりして、地域の人々の生活の変化について必要な情報を集め、読み取っている。 ・調べたことを年表や白地図、作品などにまとめている。</p>	<p>・古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子を理解している。 ・地域の人々の生活の変化や向上が人々の願いによるものであることを理解している。</p>

4 指導・評価の計画（12時間取扱い 本時 12 / 12）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点 【3つの視点から】	評価の観点（評価方法） B基準
1 つ か む	1 2	○昔の道具を使っていた頃の生活の様子分かる絵を見て気付いたことを話し合い、学習問題をつくる。 ■昔はどんな道具が使われていたのだろうか？	・細かい様子まで見てとれるように拡大した絵を提示し、気付いたことを話し合う。 ・今の住宅やくらしとの違いを比べ、これから学習していきたいことを話し合う。 【視点1】 単元を通した問いと言語活動の設定	関心・意欲・態度①（学習シート） 昔の人びとがどのような道具を使い、どのような生活を送っていたのか関心を持って話し合っている。 思考・判断・表現①（学習シート） それぞれが出した学習課題を分類整理し単元を貫く学習問題を持つことができる。
	<p>【単元を貫く「問い」】 『古い道具を使っていたころの人々のくらしは、どんな様子だったのだろうか。』 ～道具やくらしのうつり変わりが分かるタイムトラベルマップをつくろう！～</p>			
2 見 通 す	3 4	○自分たちの問題を整理して、どんな答えになるのか、どうしたら調べられそうかを予想して、学習の計画を立てる。 ■古い道具は、いつごろ、どのように使われていたのだろうか？	・道具の写真から使い方を予想し、それらの道具を使った生活の様子を考えるようにする。 ・昔の道具についてさらに調べるために、どうしたらよいかという話し合いをもとに、見学・体験する計画を立てる。 ・きまりやマナーについて話し合う。 【視点1】 自分自身とのかかわり合い	関心・意欲・態度②（学習シート） 昔の道具見学の計画を立てるとともに、見学時にはいろいろな昔の道具に触れ、それらが使われていた頃の様子に関心を持っている。 技能・知識・理解①（学習シート） 博物館等の見学時のマナーや仕方について話し合う。
3 さ ぐ る ・ 深 め る	5 6 十 総 学	○たらいと洗濯板を使った洗濯を体験し、昔の道具のよさや大変さ、今の道具の問題点などについて考える。 ■せんとくのしかたに、昔と今とでは、どんなちがいがあのだろうか？	・追究活動における調べる視点を明確に持つようにする。 ・さし絵から昔の洗濯の様子で気付いたことを話し合う。 ・道具の使い方を話し合う。 ・洗濯をして気づいたことを話し合う。 ・見学したり体験したりして分かったことや感想を見学カードに書く。 【視点3】 追究活動時の視点の焦点化	関心・意欲・態度③（学習シート） 昔の道具を実際に使う体験を通して、当時のくらしの様子を思い浮かべようとする。 技能・知識・理解②（学習シート） 昔の人々のくらしの様子と考え方が、今と違っていることに気付くことができる。
		○七輪を使った火おこし体験をもとに、昔の道具のよさや困難さ、今の道具との違いなどについて考える。	※七輪体験 ・進んで体験活動をし、さらに調べるための資料を主体的に収集できるようにする。	関心・意欲・態度③（学習シート） 昔の道具を実際に使う体験を通して、当時のくらしの様子を思い浮かべようとする。

10 総学	7 8	○昔の道具やくらしの様子についてゲストティーチャーの話聞く。 ■おじいさん、おばあさんが子どものころのくらしは、どんな様子だったのだろう？ ■お父さん、お母さんが子どものころのくらしは、どんな様子だったのだろうか？	・七輪を体験してゆさぶられた思いを引き出しながら、ゲストティーチャーへのインタビューを通して、古い道具の工夫とその変化から、より良いくらしを願う当時の人々の気持ちについて考えることができるようにする。 【視点1】 他者とのかかわり合い	技能・知識・理解③(学習シート) 昔の道具と当時のくらしの様子や、現在の道具とくらしの样子の違いを、お年寄りや家の人に聞いて調べることができる。 思考・判断・表現②(学習シート) 昔の道具の工夫とその変化から、より良いくらしを願う当時の人々の気持ちについて考えることができる。
		○山鹿市の博物館にある昔の道具を見学する。	・体験活動で触れることができなかつた昔の道具や昔の家のつくりなどを見学し、現在の自分たちの生活と比較して調べられるようにする。 【視点3】 学習シートの工夫	技能・知識・理解③(学習シート) 昔の道具と当時のくらしの様子や、現在の道具とくらしの样子の違いについて、見学活動を通して調べることができる。
4 ま と め る	9 10 11	○暮らしのうつりかわりについて絵年表にまとめ、発表する。 ■道具やくらしのうつり変わりを、年表にまとめると、どんなことが分かるだろう？	・体験活動や見学活動、追究活動で学んだ昔の道具と当時のくらしについて分類させて、考えを整理しながら、絵年表づくりを協力して取り組むことができるようにする。 【視点3】 ・児童一人一人が責任を持って取り組める絵年表づくりの工夫 ・作成した絵年表を発表し、話し合うことを通して、人々のくらしの変化を考え、先人の知恵を学び、工夫や努力を理解できるようにする。	関心・意欲・態度④(学習シート) 調べてきたことを分類・整理しながら、友だちと協力して絵年表づくりをしている。 技能・知識・理解④(学習シート) 絵年表を発表し、話し合うことを通して、人々のくらしの変化を考え、先人の知恵を学び、工夫や努力を理解させる。
5 い 本 か 時 す	12	○道具や時代の変化に対応する人びとのくらしのうつり変わりや、人びとの思いや願いを考える。 ■将来、あなたの家(部屋)にはどんな暖房機を置いて、どんなくらしをしたいですか。	・習得した知識を活用して価値判断し、他者と協働しながら人々の生き方について考えることができるようにする。 【視点1】 他者とのかかわり合いによる対話 【視点2】 自己の学びの振り返り	思考・判断・表現③(学習シート) 習得した知識を活用して価値判断し、他者と協働しながら人々の生き方について考えることができる。

※ 国語の学習(「姿をかえる大豆」)において学んだことを生かして取り組んだ、「大豆づくり」(総合的な学習の時間)で収穫した大豆を使った「きなこづくり」を本単元の学習中に行うようにする。
その際にも、「臼(うす)」や「すりばち」といった、昔の道具を使って児童が実際に体験することで、昔の道具を使っていた頃の人々の苦労や生活の知恵など、人間の生き方に触れるようにすることで、本単元の学習を深い学びへと誘えるように設定する。【視点3】から)

※ 本単元の学習における体験活動で使用する昔の道具

七輪
(火おこし体験)



洗濯板・たらい
(洗濯体験)



石臼(うす) すり鉢
(きなこづくり体験)



5 本時の展開

(1) 目標 今までの学習を想起し、昔の道具や当時のくらしの様子と現在の自分たちのくらしとの関連を明らかにしながら価値判断し、他者と協働することで、これからの生き方について考えることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考									
導入 5分	1 これまでの学習を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	○昔の道具や当時のくらしの様子を意識ながら、前時までのふり返しを行う。	電子黒板									
	<p>今までの学習をふりかえりながら、道具やくらしのことについて考えよう。</p>											
展開 37分	<p>2 昔の道具と現在の道具の長所（メリット）と短所（デメリット）について比較しながら追究する。</p> <p>3 価値判断を迫る問いにより、これからの生き方について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>将来（大人になって）あなたの家でみんなが集まる部屋には、どんなだんぼう器具を置いて、どんなくらし（生活）をしたいですか。</p> <p>エアコン ・ 石油ストーブ 薪ストーブ ・ いろいろ</p> </div> <p>(1) 自分の考えに理由を付けて考える。</p> <p>(2) グループの友だちと考えを交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>言語活動（設定の意図）</p> <p>意志決定型の問いにより互いの価値と向き合い、他者と交流することを通して、社会で生きていく自分として当事者意識を高めるようにする。</p> </div> <p>4 友だちと考えを交流したことをもとに、昔の人々の知恵や生き方に触れ、これからの生き方をみつめる。</p>	<p>徹底指導（ポイント）</p> <p>○これまでの学習を補完するためにも、昔と今を比較しながら自分事として追究することで、昔の道具（くらし）の様子をより深く捉えることができるようにする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>昔の道具（くらし）</th> <th>今の道具（くらし）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長所 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>短所 △</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○今の時代にあって昔の道具（「薪」燃料）を使った暖房機（「薪ストーブ」）を使う人が増え、薪をガソリンスタンドが売られるようになった事実を提示し問いを引き出す。</p> <p>能動型学習（ポイント）</p> <p>○これまでの追究活動により習得した知識や生活経験等をもとに、意志決定を問う学習課題を提示し、互いの価値を明確にししながら、協働して自らの生き方に迫ることができるようにする。</p> <p>○自分が価値判断したことへの理由付けを明確にさせる。根拠となった資料・生活経験等を相手に明確に示しながら伝えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆社会的な思考・判断・表現（学習シート）</p> <p>B基準</p> <p>昔の道具（くらし）と現在の道具（くらし）のよさに価値を置き、これからの生き方について、理由を付けながら考えている。</p> <p>A基準</p> <p>B基準に加え、追究してきた昔の人々のくらしの様子と関連付けて考えている。</p> <p><B基準に達していない児童への手立て></p> <p>個別に言葉掛けを行い、学習経験や生活経験を引き出させながら、考えることができるようにする。</p> <p>○全体での交流により表現することで、社会への参画意識がより一層高まるようにする。</p> </div>		昔の道具（くらし）	今の道具（くらし）	長所 ○			短所 △			<p>学習シート</p> <p>ホワイトボード</p>
	昔の道具（くらし）	今の道具（くらし）										
長所 ○												
短所 △												
終末 3分	5 本時のまとめと自らの学びの振り返りを行う。	○本時のまとめをすることで、昔の人々の知恵や願いをまとめ、これからの生き方を見つめる。	学習シート									

本時の板書計画

めあて

今までの学習をふり返りながら、道具やくらしのことについて考えよう。

将来（大人になって）あなたの家でみんなが集まる部屋には、どんなだんぼう器具をおいて、どんなくらし（生活）をしたいですか。

まとめ

それぞれの道具のよさを考えて
時間
安全・便利
かんきょう
自分のくらし（生活）にあったものをえらぶ
ゆとり
べんきょう
小さい子ども

道具のうつりかわり くらし（生活）のうつりかわりの中で

	昔の道具	昔のくらし	今の道具	今のくらし
長所 ○	・自然のものを生かしている ・むだにするものが少ない	・家族みんなで協力していた ・地域の人とのつながりが深かった。	・手間がかからず、楽に使える ・一人ができる。	・時間にゆとりができた。 ・自由に使える時間が増えた。 ・男女関係なく仕事ができるようになった。
短所 △	・時間がかかる。 ・手間がかかる。	・自由な時間が少ない。 ・天気などにさゆうされやすい。	・操作が分からないことがある。 ・なおせず、ごみになりやすい	・家族や地域の人と話すことが減った。 ・自分で考えて工夫することが減った。 ・ごみやむだにするものが増えた。

道具の変化は、くらし（生活）をよりよくしようとする人々の願いや努力がある。

①  いろいろ	②  まきストーブ	③  石油ストーブ	④  エアコン
昔ながらが落ち着く	自然のものを使っている むだにならない すみは、落ちる	エアコンよりあたたかい火を見るとあたたかくなるちかくがあたたかい部屋全体もあたたまる	そうさがかんたんすぐあたたまる温度調整火事にならない全体をあたためる

自然・かんきょう べんり 心 安全 時間

ふり返り

- ①分かったこと・できたこと
- ②友達と学習してよかったこと
- ③次にやりたいこと

電子黒板への教材提示計画

① 	② 	③ 	④ 	⑤ 	⑥ 	⑦ 	⑧ 
--	--	--	--	---	---	--	--

「問い」を生むゆさぶり資料



薪... 灯油の感覚で!!

天草地域森林組合 ストーブ用

ガソリンスタンドで販売